

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

本質を見抜く

- 幕末の儒者、佐藤一斎は言う「一物の是非を見て、而て大体の是非を問わず。一時の利害に拘りて、而て久遠の利害を察せず。為政比くの如くなれば、国危し」。一つの物事については是か非かを見るだけで全体的な視点からはどうなのかを考えない。またその時だけの利害にこだわってそれが後世にどんな影響を及ぼすかに思いを馳せない。国政の要職にある者がこのようだど国は危うい、というのである。
- 西郷隆盛の遺訓に次の言葉がある。「正直を踏み、国を以てたおるの精神なくば、外国交際は全かる可からず。彼の強大に畏縮し、円滑を主として、曲げて彼の意に従順する時は軽悔を招き、好親却って破れ、終に焰の弾丸を受けるに至らん」。正道から外れ、仲良くすることばかりを考えていると侮られ、制圧されてしまう、ということである。幕末を生きた先哲二人の言葉は時代を超え、現代の日本を見通したかのように鋭い。
- 我われは本質を見抜く目を養わなければならぬ。では、どう養うか。その心得を安岡正篤師が説いている。(1) 目先に捉われず、長い目で見ろ。(2) 物事の一面だけを見ないで、できるだけ多面的全体的に見ろ。(3) 枝葉末節にこだわることなし、根本を見る。以上の心得を忘れてはならない。

(参考:「致知」2012年9月号)

人事・労務について

増加する「新・ぶら下がり社員」

- 男女を問わず、企業にぶら下がる社員が増えている。特に問題なのは、30代の「新・ぶら下がり社員」の増加だ。表面的には真面目で、言われた仕事は一応こなすが成長意欲に乏しい社員を指す。言われたことはそつなく反応するが、自己主張はせず、自ら何かを決めることもない。
- ぶら下がり社員の存在は、いつの時代も問題視されてきた。だが、経済が右肩上がりに成長を続けていた頃は、上からの指示通り動くだけでも昇給し、一定のポストも用意された。今はむしろ、給料は下がる傾向にある。グローバル化が進み仕事も高度化する中で、働く個人の価値を発揮することが求められている。30代が置かれている社会環境は、過去と大きく異なっている。

(参考:「日経ビジネス」:2012年6月18日号)

新規成長分野

「便利で安心」水の宅配サービス

- 飲料水のサーバーを置き、水の宅配を受けるサービスが、家庭にも急速に普及している。日本宅配水協会の集計では、2011年に利用者が25%増加し、今年は16%増の見通しという。重たい水を自分で買ってくる手間が省けて、コストも店頭でミネラルウォーターを買う価格と大差ない。
- 「クリクラ」ブランドで知られる業界大手のナックは、120入りのボトルが月産149万本で、業界ナンバーワンの売上げを誇る。異業種から参入する動きもある。ヤマダ電機は、富士山の銘水(株)が提供する「フレッシュ」のサーバーの取り扱いを4月から本格的に開始した。

(参考:「野村週報」2012年8月13日号)

古典に学ぶ

「他人をも利すること」を考えよう

「他人を押し倒してひとり利益を獲得するのと、他人をも利してともにその利益を獲得するのといずれを優れりとするや」

(解説) 人を押しかけて、その分まで自分の利益とする人と、人も自分も、どちらも利益が得られるようにする人。どちらが優れているかは、明らかである。

(参考: 渋澤健「渋沢栄一・100の訓告」: 日経ビジネス人文庫)